

- 並行する国道 408 号、国道 125 号等の交通量は開通前に比べ、約 1 割減少。渋滞損失は約 3 割（約 50 万時間^{*}、約 15 億円^{*}）減少。
- ・ 並行する国道 408 号、国道 125 号の交通量は、開通前 56,149 台/日に対して、開通 1 年後は 52,914 台/日と、約 1 割減少しています。
- ・ その結果、国道 125 号、国道 408 号の渋滞が緩和し、1 年あたりの渋滞損失は約 50 万時間、約 15 億円減少しています。
- ・ これらの事から、圏央道の利用が定着していると見られます。

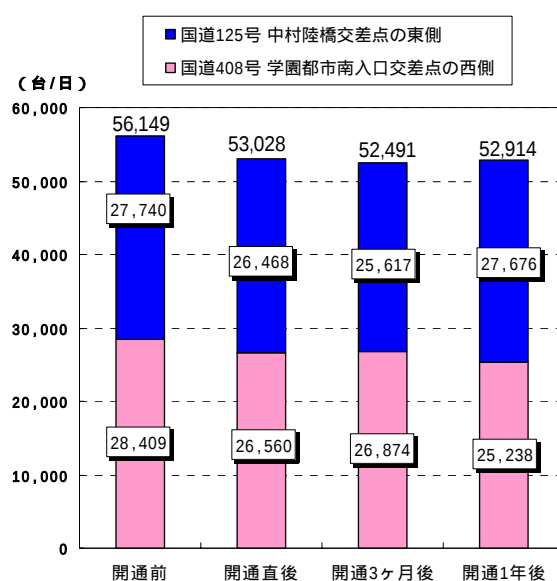
^{*} 渋滞損失時間：約 50 万時間の単位は、人・時間/年 渋滞損失額：約 15 億円の単位は、億円/年
調査日

開通前：平成 18 年 11 月 21 日(火)

開通 3 ヶ月後：平成 19 年 6 月 14 日(木)

開通 1 年後：平成 20 年 2 月 27 日(水)

■ 中村陸橋と学園都市南入口交差点の 1 日の交通量の変化



■ 圏央道と並行する一般道の渋滞損失時間・渋滞損失額（開通前、1 年後比較）

